

瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



色々な繋がりを大切にして

先々週からコロナが家族全員に広がり、しばらくの間お休みをいただいていた。

コスモスハーモニーも更新が途絶えてしまっており申し訳ありません。

元気に過ごせることも、目いっぱい働けることも、当たり前ではなくて本当に有難いことであることを、改めて感じた12日間でした。

また、その間にもお便りを寄せて下さっている方々もあり、大変うれしく思っていたところです。

また1通、紹介させていただきます。

大変興味深く読ませていただきました！幼少期から音楽が身近にあったんですね！そしてご兄弟姉妹大きくなって結局なんだかんだで全員音楽もやっているということで『親しむ』ことの重要さのようなものを感じました。

ところで話は飛びますが、テルマエロマエの作者ヤマザキマリさんのお母さんの半生を綴った実話『ヴィオラ母さん』（深窓のご令嬢だったマリさんのお母さんが自由に生きるために家を飛び出して超波乱万丈人生を送る話&マリさんの幼少期）がめっちゃくちゃ面白い！！んですが、マリさんのお母さんは東京出身だけど北海道で札幌交響楽団みたいなのに所属して、それと別にも個人でヴィオラを北海道中で長年教えているようで、今はご高齢ですが、その時代にヴィオラやバイオリンを弾いていた人は数が少ないと思うので、もしかして北海道の弦楽器関連の人はかなりの割合でマリさんのお母さんの教え子か、教え子の教え子もしくは関係者ではないかと思いますがどうでしょうか？渡辺先生は奈良にいた時に始めたということで直接は関係ないにしてもマリさんのお母さんどこかでつながっていそうですが。しかもその

話に教会も出てきます。(外国人の神父さんだったかもしれないですが)

P.S.私も学生時代カンボジアに行き「アキラの地雷博物館」という地雷で親や足をなくした子が共同生活している場所等見たり、カエルのスープ飲んでみたりしました(鶏肉に似た味でした)。アンコールワットよりそれ以外のことの方が衝撃的でした。道で演奏している体の一部のない方々も見ました。

PN.「ヴィオラ母さん」より

素敵なお便りをありがとうございます。

「アキラの地雷博物館」、久しぶりにその名を聞いて高揚しました。

アキラさんの本も買いましたし、授業でも博物館で得た資料を多分に使わせてもらいました。

私も、実際に現地で地雷撤去に同行したことがあります。

その時に記した通信から、当時の状況を思い出してみます。

=====引用ココカラ=====

都市部から車で移動すること数十分。

郊外のその場所には、民家がちらほらあり、のどかな田園風景がひろがっていた。

そして、頑強な装備品一式を身に着け、地雷撤去の作業に取り組む人達が目に入った。

よく見ると、次の看板が至る所に取り付けられていた。



まず、地雷撤去に携わっている方から説明を受けた。

全て現地語での説明のため、通訳の方が少し遅れて日本語に訳して下さい。

地雷撤去の主な手順。

これまでの作業の進捗状況。

この後の見学に際して絶対に守ってもらわなければならない注意点。

その注意点は、きわめてシンプルなものだった。

通訳がなされたあと、身がすくんだ。

必ず、私が踏んだ足跡を踏んできてください。

同行した他の先生の中には、「行けません」と正直に吐露する方もいた。

無理もないと思った。

もしかすると、足が吹き飛ばされる可能性があるのだ。

もちろん、安全には十分に配慮した上での同行だったと思うが、それでもメンバー全員が震えあがったのは言うまでもない。

地雷探知機を手にした方が、地雷原の中を歩いていく。

私たちは、その足跡をそろりそろりつついていく。

それだけで、寿命の縮む思いがした。

そして、現地の方々が、毎日そうした命の危険がある中で作業を行っておられることに、心の底から「凄い」と感じたものである。

この日、地雷は発見されなかったが、同行を終えた後に、撤去に携わっている団体の長の方から丁寧なご挨拶があった。

まずは、地雷の現状についての説明があった。

カンボジア国内に今でも眠る地雷の数は、およそ600万個。

内戦が終わった現在でも、その地雷によって多くの人々が手足を失っている現実が存在する。

「我々は、その危険を一つでも減らすために作業をしています。」

そのように話してくれた。

お話はさらに続いた。

この年は、東日本大震災の翌年だった。

現地の方は、そのことに触れて次の様に話された。

「日本の震災の事を思うと、とても胸が痛いです。地雷撤去に、日本は今も多くの支援をしてくれています。震災で国が大変な中でも、遠く離れたカンボジアを支援してくれている事、感謝してもし切れません。」

何度もお礼を言われるその方の目には、涙が光っていた。

通訳の方も泣いていた。

そして、日本の子どもたちに私たちの思いを伝えてくださいと強くお願いされた。

日本の国際協力が、現地で確かに役立っていたことを実感した瞬間だった。

=====引用ココカラ=====

現地でのつながりは、今もしっかりと生きています。

今後、いろんな形でそうした繋がりを学習に生かしていきたいと思っています。

またヴィオラ奏者のマリさんの話も教えていただき、ありがとうございました。

広いようで本当に狭い国内。

どこかで何らかの形で、きつとつながっているんでしょうね。

そういえば、先日教え子から「今度 NHK 交響楽団のヴィオラ奏者になることが決まりました！」という連絡が入りました。

私が教師一年目の時に小学校のオーケストラクラブで教えていた子で、その後5・6年生で担任もした女の子です。

今では立派な大人になった彼女も、思い出すのは低学年の頃に私の膝に乗ってニコニコと色んなお話をしてくれた姿です。

今度、SOLAN 小学校にも演奏に来てもらおうと思っているところです。

他にも、かつての教え子たちはすでに社会に飛び出し、自分の道を力強く歩み出しているところです。SOLAN のみんなも、どんな道を歩み、未来を切り開いていくのか、本当に楽しみです。

さて、先日は生活科の時間に、道泉地区の方々との交流会がありました。

昔の遊びを教えて貰いながら、和やかに過ごしたひとは、あっという間に過ぎていきました。その時の写真をいくつか紹介します。





地域の方々は

「本当にみんなかしこいですね。」

「声を聴いているだけで安らぎました。」

「一緒に時間を過ごせて本当にうれしかったです。」

と大変喜んでおられました。

地域の方々との交流や、昔の遊びの数々を体験してみてどんなことを感じたのか、またご家庭で聞いてみていただけると嬉しいです。

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)